

みんな神様になる村

あざみ草

粉雪の舞う山道を、恐る恐る走る路線バスに揺られて、近鉄大和八木駅から五時間。素通りした停留所は優に二十ヶ所を超えた頃、やっと目的地に到着。

美味しい牡丹鍋と、目に良いとかの秘境の湯に魅かれ、そして何より、冬場はバス代が無料なのに魅せられ、やつてきました十津川村へ。日本で一番広い村。なにしろ東京二十三区より広いのだが、山地で耕作できにくい土地柄のため、古来より免租だった村。

でも明るい緑色の川、清廉な空気、
うーん&イオンたごぶり。

宿の牡丹鍋、鮎料理をたごぶり頂き、
源泉の温もりと恵みを体に染み込ませ、
川音を枕に就寝。

目覚め爽やか、朝食もズラリ。
いざ帰還の途へ。…ん？ふと気になった
のが、玄関に置かれた神の鉢。



何気なく尋ねると、

ええ、十津川は皆、神道なんですよ。廃仏毀釈以来、お寺は一軒もありません」

成程。そうで尋ねた。

仏教だと、死後は地獄か極楽へ行くらしいですが、神道の死後はどうなるの？」

死んだら、みんな神様になると、教えられています。なんだか変ですけれど」

いっせ、いっせ旅の終わりに良いことを聞いた。目から鱗。

難行苦行しなくても、神になれる。そんな素晴らしい人達の村、十津川へ「阪神ハイウェイ」。

大阪の「びんぎ」124 回「投稿」